

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

仏文学専攻

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

仏文学専攻では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（文学）の学位を与える。

1. 仏文学専攻において定められた博士論文執筆資格の要件を満たした上で、仏語学研究、仏文学研究ならびに仏語圏文学研究、あるいは関連分野の研究を内容として博士論文を執筆し、定められた手続きに則った審査に合格し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、仏語および他の言語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 仏語を通じて異文化の文化的、歴史的、地理的特性を深く理解し、他者との交流を通じて課題を発見し、それを解決していくための議論や実践に資する高度なリサーチ能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として社会への発展に独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

仏文学専攻では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成している。

1. 仏語学、仏文学ならびに仏語圏文学、あるいは関連分野の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する科目を中心に履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度なリサーチ能力と課題発見能力、さらに日本語および仏語による高度な論述力を養う。仏文学専攻においては、専攻が定める「博士の学位申請および論文審査に関する手引」に則って博士論文執筆資格の要件を満たしている必要がある。
2. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学会への独自の貢献をするために必要な高度なリサーチ能力、課題発見能力、一次資料分析能力、議論構成力を養成するため、日本語および仏語による特殊研究科目

を設置する。さらに、研究成果を学会や専門誌で発表することを目的として具体的な個別指導を行う。

3. 個別の専門的研究を国際的かつ独創的に展開し、高度な異文化リテラシーを身につけることを補助するために、文学研究科による留学制度、慶應義塾大学国際センターを通じて交換留学、さらに学内外の各種留学制度などを活用した、海外の大学院への博士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。
4. 慶應義塾の「特別招聘講師」制度を活用して、海外（主にフランス）から研究者を招聘し講義を担当してもらうことで、海外の研究者との交流を培う機会とする。
5. スーパーグローバル事業による海外副指導教員制度を活用して、海外（主にフランス）から優れた研究者を招聘し、講義および研究指導を担当してもらう。

【アドミッション・ポリシー】

仏文学専攻では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持っている。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、日本語ならびに仏語でまとめることができる。
3. 仏語の一次資料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる分析的な読解力、独創的な学術的論考を仏語で緻密に展開できるアカデミックなライティングの能力を身につけている。
4. 研究資料を講読するに十分な複数外国語の能力を有している。
5. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。